



若者たちが描く「ミライ」

千葉デザイナー学院の6人が未来予想図

連載「未来∞ミライ」では、千葉デザイナー学院(千葉市)の生徒6人に、テーマごとに20XX年の「未来」を予想したイラストを描いてもらいました。毎回、紙面に掲載します。6人に思い描く「未来」を聞いてみました。

連載では「コミュニティ」「ロボット」「コミュニケーション」「農業」「ドローン」「健康作り」をテーマに取り上げます。それぞれ、小沢有策さん(20)、大曾根菜摘さん(20)、荒木梨那さん(19)、勝部まいさん(20)、大木夕維さん(20)、中村丞太郎さん(20)に描いてもらいました。

1日付のイラストは小沢さんが担当しました。田舎暮らしに回帰する人がいる

一方、高層ビルが立ち並びドローンのようなものが飛び交う超未来的な街の住民も増えるだろう——。そんな社会を思い描いたと言います。

小沢さん自身は、名前の一文字の「策」にちなんで「plan」のペンネームでイラストレーター活動を始め、ツイッターやホームページで発信中。イラストでは大型ドローンに乗ったメイドロボットを



デザインを担当した6人。後列左から勝部まいさん、荒木梨那さん、中村丞太郎さん。前列左から大木夕維さん、大曾根菜摘さん、小沢有策さん＝千葉市中央区

登場させました。「人物画を入れなければ自分が描く意味はない」とこだわったそうです。

大曾根さんは未来について「自動運転の車があればうれしい」と予想します。卒業後はデザイン業界で働く予定です。高校3年生の時、授業で絵本作家の話聞いて、自分の作品が世に出る素晴らしさを感じたことがきっかけだそうです。

荒木さんの未来予想は「必需品」と言うパソコンの進化。広告の看板などを製作する会社に就職する予定で、イラスト制作は仕事でも趣味としても続けるそうです。「向こうが透けて見えるほど薄いつパソコンが生まれるのでは」

勝部さんは、制作活動をアシストするロボットが誕生する、と未来を予想。「コミュニケーションをとりながら、電

ったことを手振ってくれたら」、やはり卒業後もデザインの仕事に関わります。

一方、デザイン会社に就職予定の大木さんは、ドローンやロボットが知能を持ち人間の敵になる未来を予測しました。「でも最後は共存が実現します」

フリーのイラストレーター志願の中村さんは、最初に紙にペンで描き、その後パソコンを使って制作するものの、どうしても紙に描いたものとイメージが違うのが悩み。未来に向けては「画面にペンでそのまま描ける精巧なパソコンがあれば何でもイメージ通りに描けますね」。

大木さんは全員の声を取り入れ、「多くの人にイラストを見てもらうので、プレッシャーがありました。でも周囲の助言で徐々に良い作品になったと思います」と話してくれました。